

## 色即是空パート2

JJ1SXA 池

理論物理学者のデビッド・ボームは「現実とは我々が信じているものである、信じているものは知覚に支えられている。知覚するものは我々が探しているものである、我々が探すものは我々が考えるものに依存している」と言っており、これは西洋科学の新しい流れだそうです。

東洋医学は全体のつながりを重視し、目が悪ければ肝臓が弱っているのでは無いかと考え、目なら目を徹底的に調べる西洋医学とは別の価値観があるようですが、そんな違いのあった西洋科学の新しい考え方と言うことになるのだと思います。

光の反射で網膜に入った情報が **500** 万個の円錐細胞と **1** 億個の桿状体細胞を通して電気信号に変わり、視床下部へ送られ、脳を通して立ち上げた像が、我々の見る映像だそうです。

仏教での「色・シキ」は、我々に認知できる姿で現れることであり、その本体はすべて波動だと言う考え方が「空・クウ」だと言う事だそうです。

そんなことを聞かされると「色即是空」の意味もわかりやすいような、ますます分かりにくいような？、人間の思う事は、大脳皮質が考えること、世の中には思っても見なかったことが溢れています、自分の頭で考えたことなどは多寡が知れています。

こんなことを書いていると、悟りの境地が開けてきそうな気もしますが、とんでもない思い違いです。

洋の東西を問わず、昔の科学者は、哲学者であり、宗教家であったことがうなずけま、科学する心は、真理を追究することですから、当然哲学に通じ、宗教につながっていて当たり前・・・とここまでは理解できますが、さて自分の身に置きかえて考えてみたら、科学する心は持っているつもりであったが、人が考え設計した無線機の機能が使いこなせなかったり、パソコンにしても、ハード面はもとより、ソフトさえ使いこなせない、真理を追究するどころか、その手前も手前、はるかの手前で足踏み、哲学に通じ、宗教につながるなどとんでもない話、やはり凡人は凡人・・・

しかし、凡人であることが理解できれば、これも悟りかと、わけのわからない納得、「昨日かくてありけり、今日もまたかくてありなん・・・」と、自分を慰めるしかない情けない毎日ながら、食欲は旺盛、身体もそこそこには動くから、脳の衰えは歳のせいにして、深く考えない方が良さそうです、諦めの境地を、悟りの境地に置き換えて、「色即是空」がわかったふりして、気楽にいこうと、全くつまらないことを、のたくっています。

わけのわからない文章を書きましたが、ボケない程度に適度に頭を使い、ヨボヨボにならない程度に適度に身体を動かし、平穏な日常が続くことを願っています。

そろそろ認知症予備軍の年齢・・・認知症や寝たきりの長生きはしたくない！！